

【6 菊陽町 Kikuyo Town】



阿蘇くまもと空港から(右は金峰山)

菊陽町では、町の中心部やや南側を東から西へ流れる白川の流域や、南端の高遊原(たかゆうばる)台地に広がる阿蘇くまもと空港などから、熊本平野・金峰山越しに“東面の雲仙岳”が眺望できます。白川流域や阿蘇くまもと空港からは、阿蘇山も眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

白川の北側には、豊後街道(大分市～竹田市～阿蘇カルデラ～熊本市)が通っており、幕末に勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎に出張した際には、この豊後街道を通り、有明海を渡って雲仙岳山麓の街道を通り、長崎に到達したとされています。そのすぐ南側には、大分市～長崎市をつなぐ国道 57 号線が横断していますが、この国道は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路の一部となっており、白川とともに上記の大三角形の中軸にあたる位置を通過しており、阿蘇山と雲仙岳のつながりを感じることができる道路です。

白川の流域に広がる水田は、下流の熊本市内の地下水の涵養に貢献しており、大津町や熊本市等と「白川中流域における水田湛水推進に関する協定書」を取り交わしています。その白川の水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を白川や緑川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

ちなみに、上記の阿蘇山の噴出物が水田の用水路に堆積して詰まらせるのを防ぐため、江戸時代の藩主・加藤清正は、当時の土木技術を駆使して独特な用水路(鼻ぐり井手)を整備しましたが、現在では同町の文化財に指定され、町内のガイドの案内が受けられます。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、菊陽町内を旅してみませんか？

●菊陽町の観光情報はこちら↓

菊陽町 <http://town.kikuyo.lg.jp/360/>

菊陽町商工会 http://www.kikuyou.jp/user_data/siseki.php



阿蘇くまもと空港から阿蘇山方面